



—第四想—

四月号からスタートした「夢だより風だより」は、町長が徒然想っていること、考えていることを書き記し、皆さんにお伝えするコーナーです。

このコーナーに関するご意見、ご感想がございましたら町企画課へお寄せください。



人が生きるとは、あらゆる人や物との出逢いの積み重ねではないだろうか。「後姿に後光がさす」という言葉があるが、つましい服装をまとったKさんの後姿に、私は例えようもなく尊いものを感じて肅然たる思いであった。このようなすばらしい方々がいるかぎり、懸命に汗を流しながら、この町を創っていくたい、いかなければならないと思う。

町長のいすに座っているのは、いい気分を味わうためではなく、「夢」を実現するためには、座っているのだから。



町長記

捨てられている空カンでも真岡市の処理工場まで持つていけば換金できる、と友人から教えたKさんは、それ以来毎日空カンを拾いながら散歩をし、換金したお金は、年に一度か二度こうして町に寄付されているのである。平成7年から続いている寄付は、今度で五度目である。

町社会福祉協議会の「愛の基金」には、Kさんだけではなく、多くの皆さんの善意が寄せられている。たくさんの「Kさん」が自らのできる範囲内で町を考えてくれているのだ。このことは、「一人は万人のために、万人は一人のために」の無言の教えであると思う。

6月1日、光陽台在住のKさんが町長室を訪ねてくれた。Kさんは、背スジをピンと伸ばし、物事を正面から真っ直ぐに見つめる、善意の魂のような方である。

何年か前に体調をくずされから、毎朝の散歩をはじめられた。そこでまず目にいたのは、歩道や緑地帯に捨てられている無数の空カンだった。

「今年も空カンを換金することができます。福祉に役立てていただければ幸いです。」

捨てられている空カンでも真岡市の処理工場まで持つていけば換金できる、と友人から教えたKさんは、それ以来毎日空カンを拾いながら散歩をし、換金したお金は、年に一度か二度こうして町に寄付されているのである。平成7年から続いている寄付は、今度で五度目である。

Kさんは、背スジをピンと伸ばし、物事を正面から真っ直ぐに見つめる、善意の魂のような方である。

何年か前に体調をくずされから、毎朝の散歩をはじめられた。そこでまず目にいたのは、歩道や緑地帯に捨てられている無数の空カンだつた。